

令和4(2022)年度 下都賀地区教育相談連絡会第1回研修会を開催しました

日 時：令和4(2022)年5月9日(月)

会 場：小山市桑市民交流センター「マルベリー館」 2階会議室

参加者：・下都賀地区各市町教育相談機関関係者

・下都賀地区各市町適応指導教室担当者

・下都賀地区各市町教育委員会教育相談関係担当者

・県南健康福祉センター福祉指導課・健康支援課担当者

・各市保健福祉部・福祉事務所福祉部家庭相談員

・下都賀地区小・中・義務教育学校教職員

1 研修内容について

(1) 目的 下都賀地区管内の教育相談機関、適応指導教室及び小・中・義務教育学校の連携を密にし、児童生徒の健全育成を図る。

(2) 内容 講話 講話1「適応指導教室からの実践発表」

小山市不登校適応指導教室「アルカディア」

講話2「児童生徒の援助希求能力を高めるための教育相談体制研修」

講師 渡邊 文子 栃木県スクールカウンセラースーパーバイザー

2 本研修で学んだこと(参加者が記入した〈研修の振り返り〉より)

【講話① 適応指導教室からの実践発表について】

○アルカディアの実践を聞き、様々なことが参考になりました。アルカディアの教室自体が活気あるものに思え、お子さんたちが生き生きと活動している様子が素晴らしかったです。

○市内に勤務しながら、適応指導教室についてどれほど理解していたのだろうかと考えてしまいました。在籍校への復帰を目標に御指導してくださっている先生方への協力の必要性、“共に子どもたちのために”という姿勢の大切さを学びました。

○アルカディアの実践発表では、“大切にしていること”が保健室登校の関わり方ととても似ていると感じました。学校に全く登校できなくなった子どもたちが、アルカディアのような安心できる場所で元気を取り戻すことができるのであれば、積極的に連携していきたいです。

○お世話になっている児童がいても、なかなか担任や児童指導担当者に任せてしまいがちになってしまいます。月末の出席の様子で細かく様子をうかがえて、大変ありがたかったです。

○アルカディア利用の児童生徒数が予想以上だったので驚きました。学校という枠組みではない学ぶ場が必要な児童生徒がそれだけいるということだと思いますが、アルカディアの指導からの学びを私たちが学校の中で活用していくことも必要だと思います。

○アルカディアが大切にしている3つの事項は、不登校適応指導教室だけでなく、子どもの成長、発達にも大切であることを改めて考えさせられました。利用する子どもの数が増えているのも驚きでしたが、そのような場が小山にもあることで救われる人も多いかと思います。

○様々な個性を持つ児童生徒に対し、集団活動、体験活動を主とした自己有用感を高める取組に、学ぶことが大変多くありました。本適応指導教室でも参考にさせていただきたいと思います。

○「大切にしていること」の中にあつた「子どもが安心していられる場所をつくる」ために「1時間だけでもいいよ」と子どもを認める場であることの大切さを再認識しました。自校での取組に活かしたいと思います。

【講話② 児童生徒の援助希求能力を高めるための教育相談体制研修について】

- 援助希求能力を育てる大切さを再認識いたしました。各職場、学校で教育相談体制が整っていると、子どもたちに何か相談されても、落ち着いて対応でき、子どもたちに寄り添えると思えました。分かっているつもりでも、違っていることも多いと思えました。大変勉強になりました。
- 自殺を未然に防いだり、SOSをキャッチしたりする方法が具体的に分かったのでよかったです。また、演習を通して話を聞く大切さと同時に難しさも実感することができました。教育相談系なので、今回学んだことを生かし、SOSを見逃さずに、援助希求能力を育てていきたいです。
- 子どもたちの命を守るための指導のために、日頃からの教育相談体制の充実を図らなければと強く感じました。自殺というワードは、かけ離れたものでなく、身近にあるものなのだと実感し、正しく取り扱っていくべきだと学びました。話を聴く、話すことの演習もあり、難しさも感じました。だからこそ、日々、校内で連携を図りながら、体制をつくっていききたいと思えます。
- 援助希求能力、ゲートキーパー、どちらも知らない言葉で勉強になりました。援助希求能力は子どもだけではなく、先生方も弱まっているような気がします。弱音も吐けるような環境にできるよう、サポートしていきたいです。私にできることは少ないですが、つなげることを意識していきたいです。
- 小規模校であっても、いつどの子が苦しんでしまうか分からないので、日頃からの教育相談活動を充実させるために、再度計画を見直したいと思えました。
- 本校は不登校の改善が最重要課題です。ようやく校内でも生徒指導、教育相談、特別支援のつながりが生まれ、チームができつつあります。今日学んだことは、先生方一人一人にとっても必要なことなので、全職員で共有し、本校として何ができるかを考える貴重な資料として活用いたします。
- 話の聴き方については、普段から意識してきましたが、援助希求能力を弱めてしまうNGワードにハッとさせられました。うっかり言ってしまった一言で、子どもたちの心を閉ざしてしまうことにならないよう、今日の講義を胸に刻み、明日からの児童対応に生かしていきたいと思えます。
- 演習を体験し、聴く（受け止める）側の言葉かけだけではなく、視線、うなずき、雰囲気など全てを含めて大切なのだと実感しました。「待つ」「引き出す」重要性を学ばせていただきました。
- 渡邊先生の講話は本当に勉強になりました。長い間生徒を指導することばかりに力を注ぎ、じっくりと悩みを受け止めようというスキルや知識も未熟だったと反省します。本日の研修の内容を学校に戻り、先生方に伝達し、私もその役割を果たしたいと思えます。
- 「教育相談体制の充実」ということはよく言われますが、やはり「教育相談」と「児童・生徒指導」、「特別支援」さまざまな立場の人がチームで取り組むことが大切だと改めて感じました。研修会で学んだ内容を学校で共有したいと思えます。



(アルカディアの実践発表)



(渡邊 SV の講話)